

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和7年6月23日 ～ 令和8年3月10日
調査研究事項	以下のⅠ～Ⅴのいずれであるかを記載した上で、研究テーマを明記する。 Ⅲ. 都道府県・市町村間の連携に関すること
調査研究のねらい	<p>○ 義務教育の学びを必要とする大阪府民が、府内のどこに居住していても、よりスムーズに府内の夜間中学に就学できるようにするための府と各市町村の連携について、より効果的な手法について研究を進める。</p> <p>とりわけ夜間中学の設置のない市町村の意識を高めること、設置市外からの入学希望者の需要の更なる掘り起こしについて研究を進める。</p> <p>また、近年、不登校学齢生徒の学びの場の1つとして、夜間中学が注目されている。現状、府内の夜間中学では学齢生徒の受入れは行っていないが、その可能性については研究していきたいと考えている。そのことが、現在夜間中学設置のない自治体にとっても、夜間中学を自分事として捉えるきっかけになるのではないかと考えている。</p> <p>令和7年には、大阪・関西万博が開催される。府教育庁として、夜間中学生の共同制作作品やパネルの展示を計画している。全世界へ発信することで、夜間中学の広報に資するとともに、これを契機に設置市同士の連帯も深めていきたい。</p>
調査研究の成果	<p>1. 全市町村の夜間中学への就学体制の構築について</p> <p><u>(1) 実態調査 (令和7年5月)</u></p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府内夜間中学の実態を把握し、以後の施策立案における基礎資料とする。 <p>②実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府内夜間中学11校に対し府独自の実態調査を実施し、学級数、学年別人数、年齢層、居住市町村、国籍、入学者数、入学生が夜間中学を知ったきっかけ、前年度卒業者数、進学状況等について把握した。 <p><u>(2) 大阪府夜間中学連絡協議会 (令和7年11月)</u></p> <p>①目的</p>

- ・各市町村教育委員会担当者の夜間中学への見識を深め、学びを必要とする方に、適切な情報がより一層届く取組みの充実をめざす。

②実施内容（府内全市町村教育委員より担当者が参加）

- ・府からの説明

府内夜間中学の状況（実態調査結果等）について
令和2年国勢調査の結果について
広報の充実について

- ・講演

「夜間中学の拡充から、すべての人の識字・基礎教育の保障へ」

摂南大学現代社会学部講師 江口 怜

夜間中学の歴史や、近年の国の動向、夜間中学が担う識字・基礎教育の保障について、研究化されている内容や事例、国勢調査の結果などを示しながら、全市町村に対して講演をしていただいた。

- ・情報交流

令和2年の国勢調査結果や講演内容より、府内全市町村に義務教育未修者がいる可能性があることや教育機会確保法、夜間中学の役割等をふまえて、各市町村における効果的な広報の仕方についてグループ協議を行ったことで、広報の充実に向けて取り組むことの重要性について全市町村と共有することができた。また、市町村の広報の工夫を共有することにより、好事例を収集し、これからの広報の充実につなげることができた

全グループに夜間中学設置市の担当者を配置して意見交換を行うことで、全ての担当者が夜間中学のことを自分事として捉えることができていたように感じる。

2. 設置市の教育委員会との連携について

（1）夜間中学設置市主管課長会議（令和7年8月、11月、令和8年2月）

①目的

- ・府教育庁と夜間中学設置市教育委員会が、学校の現状や課題等について情報交換し、共通理解を図ることにより、夜間中学における教育の充実をめざし、すべての府民の義務教育機会の確

保に資する。

②実施内容（府内夜間中学設置市の主管課長等が参加）

- ・府実態調査の共有
- ・情報交換・意見交流
 - 卒業後の進路
 - 市の夜間中学への支援（通訳、SC、SSW、非常勤、施設等）
 - 広報の取組み・計画
 - 府外在住者の受入れ状況
 - 不登校学齢生徒の受入れ
 - 夜間中学連絡協議会での協議の流れの共有
 - 1年間の広報の成果
 - R8年度入学希望者の状況等
- ・大阪・関西万博「識字・夜間中学展」報告
- ・先進市視察報告（香川県三豊市立高瀬中学校夜間学級）
学齢生徒も受け入れている夜間中学を訪問し、配慮や工夫等の取組みについて得られた情報を共有した。

3. 広報活動を通じた市町村との連携

（1）広報の充実

①目的

- ・府内8市に11校の夜間中学を有することになる大阪府において府内すべての市町村に在住されている夜間中学での学びを必要とする人に対して、より効果的に情報を届けるための検討を行う。

②実施内容

- ・夜間中学チラシ、入学案内の更なる多言語化を図った。中国語（繁体字）、モンゴル語を追加し22言語に対応できるようになった。
- ・夜間中学設置市主管課長会議にて府や各設置市の広報の取組み（市の広報紙、市のケーブルテレビ、市のウェブサイト、SNSへの掲載など）を共有し、各市での広報の充実に生かした。
- ・7月30日、大阪・関西万博において、「識字・夜間中学展」を開催。本展示会では、夜間中学や識字・日本語指導教室で熱心に学ぶ方々の姿などの写真パネルや動画、夜間中学生の共同作品を展示し、およそ3,900人の来場者を迎えることができ、多くの方に夜間中学の取組みを知っていただくことにつながった。

・大阪府夜間中学連絡協議会で、今回作成したポスター・チラシを配付した。

令和2年の国勢調査結果より、府内全市町村に義務教育未修者がいる可能性があることをふまえて、効果的な広報の仕方について、ポスター・チラシを提示したうえでグループ協議を行ったことで、更なる広報の充実に向けて取り組むことの重要性について、全市町村と共有できた。

4. 調査研究の総括

都道府県・市町村間の連携については、夜間中学連絡協議会、夜間中学設置市主管課長会議をはじめ、学校訪問の実施や連絡会等を年間通じて様々な形で行うことができた。

すでに域内に複数の夜間中学を有しており、府内在住であれば、どの夜間中学に通学することも可能である大阪府においては、夜間中学の広報として、近くの夜間中学をスムーズに案内できるかどうか非常に重要となる。

夜間中学連絡協議会において、夜間中学の設置のない自治体担当者に対しても、夜間中学の意義や、夜間中学を必要とする方に情報を届ける広報の必要性を改めて共有するとともに、各市町村の施策について情報共有等を行うことができたことは府と市町村の連携において大きな意義があったと考える。

なお、大阪府の在留外国人数は、ここ数年増加傾向にあり、広報媒体については、広報ポスター・チラシの多言語化を進めることで、府内在住外国人の約98.0%の母語をカバーすることができた。また、配架スペースと多言語化を両立するために二次元コードを活用する工夫は本年度も継続し、言語数の拡充にも効果的に対応できた。昨年度の成果になるが、今年度の府内夜間中学への入学者272人の内29人（10.5%）が自治体（大阪府や府内市町村）の情報（広報や入学ポスター、HPなど）により、夜間中学を知ったと回答するなど、新たなニーズの掘り起こしができた。今回の工夫がどれだけ効果的な広報であり、夜間中学への入学につながったかの検証も今後行っていきたい。